

# けい酸加里の中間追肥／Q & A

Q：なぜ出穂 40 日前頃に施肥するの？

A：稲のケイ酸と加里の吸収が旺盛になる直前で、かつ効率的に吸収されるからです。

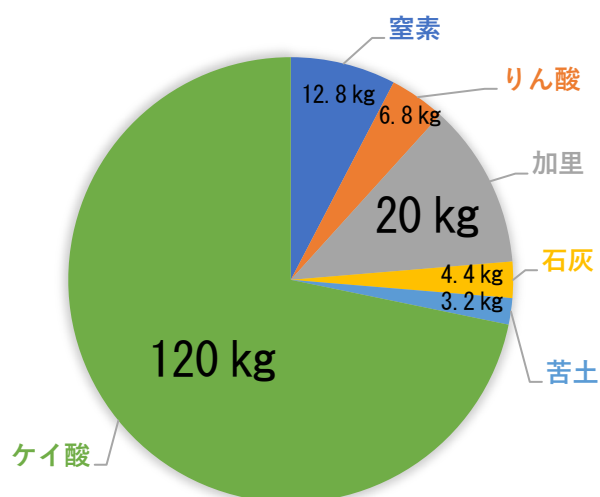
水稻で一番多く吸収されるのはケイ酸です。10a 当り 120 kg も吸収すると言われています。

二番目に多く吸収されるのは加里です。10a 当り 20 kg を吸収すると言われています。

ケイ酸と加里は、生育後半（幼穂形成期以降）に多く吸収されます。そのため、吸収が旺盛になる直前の出穂 40 日前頃の施肥がとても効果的です。

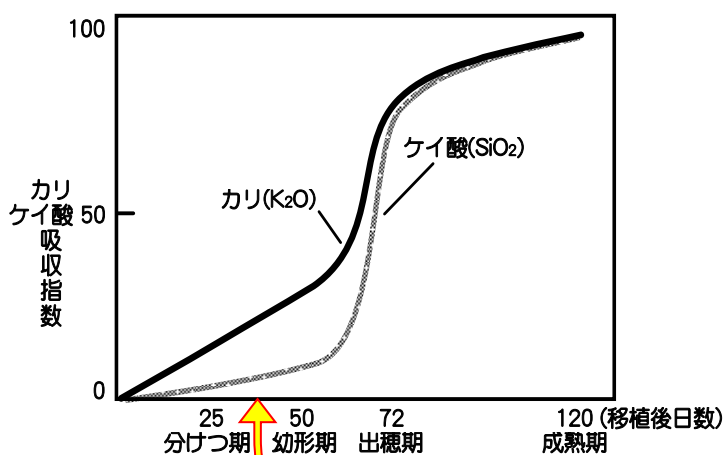
また、この時期は地表面に沿ってうわ根が張っており、根から出る根酸によって効率的に吸収されます。

けい酸加里の肥料成分は、く溶性（水には溶けず、根から出る根酸等に溶ける）で長く効くためこの時期に施用しても成熟期まで肥効が長く持続します。



水稻の無機養分吸収量の割合の例

※kg 数量は玄米 600 kg/10a 生産した場合の吸収量



中間追肥の時期  
(出穂 40 日前頃)

水稻のカリ、ケイ酸の吸収指数の経時変化 (江崎幹夫 1995)



## Q：水管理はどうしたら良いの？

A：通常の水管理で問題ありません。

けい酸加里の施肥により、特別な水管理は必要ありません。

けい酸加里の成分は「く溶性」で、水には溶けず、根から出る根酸や土壌中の酸に溶ける性質です。そのため、施用後、すぐに水を落としても、田面に水が残っていてもどちらも問題ありませんので、通常通りの水管理を行ってください。

## Q：中干し前と中干し後ではどちらが良いの？

A：中干し前～中干し開始ごろの施用をオススメします。

中干し前の水田は、土が軟らかく肥料の粒が土の中に潜り込みやすくなり、根と接触する機会が増えるため、中干し前～中干し開始ごろ(水の落とし始め)までの施用が効果的です。

中干し後は土が硬くなっており、圃場の中に入っただけの施肥作業がしやすい反面、肥料の粒が土中に潜り込みにくく、水稻の根に触れる割合が少なくなります。

そのため、より肥効を発揮させるためにも、中干し前～中干し開始ごろの施用がオススメです。

## Q：けい酸加里を施肥すると葉色が変わるけど、問題無いの？

A：一時的なものなので、問題ありません。

けい酸加里を施用すると、葉色が濃くなる場合があります。

これは、けい酸加里がアルカリ性の肥料のため、地力窒素が引き出される「アルカリ効果」によって、葉色が濃くなります。ただし、一時的なもので長続きしません。

逆に、けい酸加里を施用すると、葉色が薄くなることもあります。これは、けい酸加里によって窒素の過剰吸収が抑えられたためと考えられます。

葉色が濃くなるか薄くなるかは土壌条件によりますが、いずれも、一時的なものですので稲の生育には問題ありません。

保証成分(%)			
く溶性加里	可溶性ケイ酸	く溶性苦土	く溶性ほう素
20	34	4	0.1



施肥法	施肥量 (10aあたり)	施肥時期：方法
基肥施用の場合	4 0 kg～6 0 kg	耕起前に施肥
中間追肥の場合	2 0 kg～4 0 kg	出穂4 0 日前頃に施肥

※中間追肥が労力的に大変な場合は、基肥施用でもOKです。

開発肥料株式会社